

YouTube「MBSニュースチャンネル」 100万人突破。若いスタッフが ワイワイやっているのが成功の鍵



報道情報局報道センター
クロスメディア担当部長
小野智也さん(右)
報道情報局報道センター
主事
原田浩平さん(左)

選挙特番のライブ配信など 放送以外のコンテンツが増加

——2025年1月27日に「MBSニュースチャンネル」のチャンネル登録者が100万人を突破しました。まずはその感想をお聞かせください。

原田■とてもうれしいです。チャンネルの開設が2019年5月29日で、最初は放送したものを細々と切り出して、少し時間が経ってから配信していたような状況でしたので、100万人突破はとても早かったという印象です。

小野■私が担当するようになって2年ほど経つのですが、体制を強化してからはグッと伸びたように思います。コンテンツも、例えば会見などのライブ配信や、放送されていないけどカメラを何台も回している花火大会やお祭りなど、放送以外の割合が増えていったのも、チャンネル登録数が伸びた要因かと思います。

原田■選挙特番のライブ配信や、放送で出きれなかったロングインタビューなどが増えていったのも大きかったと思います。

——特にどのような動画の再生数が多いのでしょうか。

小野■昔のドキュメンタリー番組を配信すると、若い世代からコメントの書き込みが多くて、結構見られているという感覚はあります。

原田■例えば障害者のご夫婦を描いたドキュメンタリーなど、難病や障害者といったテーマ性のあるものが再生数は伸びる印象があります。

小野■一方で、ドキュメンタリーだけではないというのも、このチャンネルの大きな特徴だと思っています。

現在、現場のリーダーである原田の元に20代から30代の社員とスタッフがいますが、みんなでワイワイしながらやっています。例えば、ショートムービーのようなものを若い感性で作るとか、もともとベテランのディレクターが作った特集番組を30秒ほどにしてわかりやすい形で伝えとか、サムネイルも引きのあるものにするとか……。同じ報道の世界ではありますが、そういった感性を大事にしながらいろいろなコンテンツを作っています。「ワイワイやっている」というのが、成功の鍵の一つかなと思っています。

関西ローカル局から 全国区の放送局へ

——全国区の話題を、独自の視点で報じているという印象もあります。

小野■震災や選挙の報道など、放送のほうでも日本全国の関心事をしっかりと捉えて関西人の目線で斬るといって、報じることは報道情報番組「よんチャンTV」で毎日やれていますが、配信でそれができるようになるまでは結構時間がかかりました。今では関西のローカル局からいろいろなことを扱える全国区の放送局になったのではないかと実感しています。だから、YouTubeに対しても、そういう全国の人たちに見ていただけるような内容がかなり出せるようになったと思います。こうした報道情報局の姿勢は、放送と配信にしっかりと連動しています。その結果、関西以外の人からもたくさん見られるようになったと思います。

原田■以前は関西の話題を中心にやっていた印象がありましたが、コメ

の高騰の話にしても、最近はそういった話題をいち早く取り上げていくようになり、テレビ局自体の環境が変わってきたと思っています。現場としてもすごく実感しています。

オリジナルコンテンツにも チャレンジしたい

——今後このようなことをやりたいとか、このようなチャンネルにしていきたいということがあればお聞かせください。

原田■個人的にはオリジナルコンテンツが作れたらいいなと思っています。例えば、番組中の専門家への取材などを単発の動画として配信するとか。あとは、討論番組みたいなものもできたらと思っています。今後、体制などをさらに整えていって、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。

オススメコンテンツ



【特集】91歳で今もフルタイム勤務
商社で働く「世界最高齢の総務部員」
に学ぶ「働く意義」

生涯現役として90歳を超えてもおフルタイムで働き続け、「世界最高齢の総務部員」としてギネスブックに認定された女性。2025年2月末で900万回以上の再生数を記録。

